

「レジリエンス」

2025・8・22 校長 重枝一郎

少し前には「With AI」と言われていましたが、今はすでに「After AI」と言われています。AI が当たり前となり、教師の世界にも変化が生まれると思われます。川島教頭からもらった資料に「どんなに AI が発達しようとも生き残る先生とは」というものがありました。

1つ目は、「クリエイティブな先生」です。みなさんに驚きやインパクトを与えられる授業展開は必要不可欠だからです。

2つ目は、「生徒の人間力を向上させることができる先生」です。愛は本当の意味で AI はもつことはできません。みなさんの心の成長を手助けできるのは人間だけです。教師という仕事は、人間味のある仕事といえるのです。

3つ目は、「生徒の個性を見出せる先生」です。みなさんは一日の大半を学校で過ごします。学校というところは、大勢の人たちの比較の中で、その人の尖った部分が見えやすいからです。

そして、総じて言えることは、「しなやかで折れない心（レジリエンス）を育む先生」です。みなさんのしなやかで折れない心を、タイミングという武器を駆使し、関わりの中で育てていく。この「人間臭い」部分が、これからの時代には必要になると言われます。君たちは将来何者になるかはわかりませんが、同じようなことが考えられると思います。

しなやかで折れない心（レジリエンス）は、忍耐力とつながります。はっきり言って、忍耐が継続しなければ結果は出ません。でも、人は一人では生きていけない弱い存在なのです。その弱い人間は、つながることが大事なのです。

哲学者パスカルの「人間は考える葦（あし）」という言葉聞いたことがあると思います。生徒に「考える葦」とはどういう意味かと問うと、まあまあの生徒が、「人間は考える存在である」と答えます。そして「葦の意味は？」となります（笑）。

葦は自然の中で弱さや儚さの象徴にとえられます。パスカルは「人間は弱いものだということを考えられる存在、これが人間。弱さの自覚から、人間はつながって生きるもの」と言っています。葦は水辺に群生しています。1本では弱いけれど、つながって固まっているので、風を受けて傾いても、またしなやかに戻ってくるというレジリエンスをもっているのです。私は、女学院という学校は、そうありたいと思っています。

今の時代、スマホに1日6時間という中高生が増えていると言われています。スマホの時間に反比例して、睡眠時間が少なくなります。睡眠不足は、集中力やレジリエンスを低下させます。なぜなら、睡眠不足は、脳科学的に、ネガティブな情報や記憶を整理されないことが明らかになっています。その結果、感情の起伏が激しくなったり、ちょっとしたことが気になり落ち込んだりすることが増えていくのです。しなやかで折れない心のレジリエンスを伸ばすためには、基本的な生活習慣は最重要なのです。2学期は、このようなことも考えて、自分で一日の生活をデザインする力を付けてほしいと思います。

一人一人に寄り添うキリスト教学校として、2学期もチャージングにがんばろう